

学生新聞

放送大学
埼玉学習センター
埼玉CSC交流会
学生新聞
編集委員会
〒330-0853
さいたま市大宮区
錦町682-2
TEL.048-650-2611

第7回埼玉フェスタ開催 熱意、協力、行動力を結集 放送大学創立30周年記念行事も



第7回埼玉フェスタは、10月12日、13日の2日間埼玉学習センターで開催されました。

放送大学創立30周年記念行事、岡部学長の記念講演「登山の科学・スキーの科学」並びに埼玉学習センター

第7回埼玉フェスタ(学園祭)を願う

代表 嶋崎洋明

第7回埼玉フェスタは、10月12日、13日の2日間埼玉学習センターで開催されました。

放送大学創立30周年記念行事、岡部学長の記念講演「登山の科学・スキーの科学」並びに埼玉学習センター

第7回埼玉フェスタが去る10月12日(土)、13日(日)の両日、放送大学創立30周年記念行事と併せて開催され、両日ともに、普段の学習センターとは違った賑わいを見せて、成功裏に終了した。

前向きな「学び・語り・集い・創る」熱意、協力・行動力の結集による大きな成果であった。学習センター教職員、学生団体(サークル)、同窓生、同好会関係者達が一体となった努力の賜物である。

1日目・12日(土)は講堂で、ソシアルダンス、オカリナ演奏、民話のお話「山椒大夫」が行われた。また、第1講義室では、公開勉強会「連句を楽しよう」、DVDオペラ鑑賞会「ホフマン物語」のほか、放送大学創立30周年記念特別企画として埼玉学習センター主催の「卒業生・在校生による放送大学での学びを語る会」が開催された。

2日目・13日(日)は講堂で、午前は健康体操研究会の「経絡体操・ベ



「卒業生・在校生による放送大学の学びを語る会」が開催されました。

「フェスタ」の目的は、学生同士、同窓会員、教職員の皆様の仲間意識を高め、交流の輪を広げる場の提供と認識しております。

実行委員、学習センター、同窓会の皆様のご支援、ご協力を賜り盛大に開催されましたことを厚くお礼申し上げます。

午後には岡部洋一学長の放送大学創立30周年記念公開講演会「登山の科学・スキーの科学」に在校生、同窓生など大勢の聴衆が参加して、盛大に開催された。

一方、第1講義室では朗読の会の「朗読劇・したきり雀ほか」の催し、実習室ではPC教室として「パワーポイント」の実習や絵手紙教室、身体測定デモ等の実演も行われた。

そして、2日間共通イベントプログラムとして個人の作品展示及び団体活動の展示、バザー、おもてなしの抹茶・菓子のサービスがある茶席處が設けられた。

すべてのイベントが終了した後、講堂において賛助券協力者の交流パーティーが開催された。プロのアコーディオン奏者の演奏があり、壇上では岡部学長が自らタクトを振って合唱の指揮を執られ、会場を盛り上げてくださった。

今年のフェスタでは、56名の学生・同窓会員が実行委員として運営に協力した。運営経費に充当する賛助券は191枚の購入があり、前年よりも多数の参加、協力を得た。



そのほか、2日間共通イベントプログラムとして個人の作品展示及び団体活動の展示、バザー、おもてなしの抹茶・菓子のサービスがある茶席處が設けられた。

すべてのイベントが終了した後、講堂において賛助券協力者の交流パーティーが開催された。プロのアコーディオン奏者の演奏があり、壇上では岡部学長が自らタクトを振って合唱の指揮を執られ、会場を盛り上げてくださった。

今年のフェスタでは、56名の学生・同窓会員が実行委員として運営に協力した。運営経費に充当する賛助券は191枚の購入があり、前年よりも多数の参加、協力を得た。



第7回埼玉フェスタの会場写真

オープンキャンパスの開催

左記日程にて、個別相談を含むオープンキャンパスを開催します。オープンキャンパスには、在学生も参加できます。

- ① 開催日 12月14日(土)、15日(日)、16日(月)
- ② 時間 10時～14時
- ③ 内容 大学の概要説明、履修案内、卒業生の体験談、施設見学、個別相談など

来年度(4月入学)の学生募集の開始

平成26年度1学期(4月入学)の学生募集が始まりました。

皆さんの周りに放送大学に興味・関心のある方がおられましたら是非、ご紹介ください。紹介された方が入学した場合、

薄謝を進呈いたします。
* 出願期間は次の通り。
① インターネット出願 11月15日(金) から受付開始
② 郵送による出願 12月1日(日) から2月28日(金) 本部必着

面接授業の追加登録

面接授業の追加登録は空席があれば、原則として最初の開講日の1週間前まで受付しています。

まだ空席のある科目もありますので、ご確認のうえ申し込みください。

なお、授業準備の都合上1週間前まで受け付けられない科目もありますので、ご注意ください。

締め切り迫る通信指導

通信指導の提出期限は、11月29日(金)です。忘

れずに提出しましょう。答案を提出しないと単位認定試験が受けられないようになりますので注意して開始

「卒業によせて」 笹原誠二

この9月に「自然と環境コース」を卒業し、埼玉学習センターから「生涯学習奨励賞・金剛賞」と本部からは「放送大学名誉学生」の称号を頂き、大変恐縮しています。

定年退職した平成14年に本校に入学してからの10年目になります。この10月には、「情報コース」に再入学しました。埼玉CSC交流

「学ぶことは知ること、学ぶことは喜び」と学歌にありますが、入学以来知らないことの多さに気づき、新しい知識を得ることの大切さを痛感させられた。埼玉CSC交流

「学ぶことは知ること、学ぶことは喜び」と学歌にありますが、入学以来知らないことの多さに気づき、新しい知識を得ることの大切さを痛感させられた。埼玉CSC交流

インタビュー 大塚正信さん



Q 放送大学に入学されたきっかけは。
A 昭和63年、40歳の時に編入しました。会社で新しい職種に転勤となり専門知識を身に付けたいと思ったからです。当時、会社の社宅が与野市にあり埼玉学習センターまで徒歩15分程で、仕事の帰りに夜間面接授業も受けられてとても便利でした。23年で卒業するつもりでした。

Q 入学されたきっかけは。
A 昭和63年、40歳の時に編入しました。会社で新しい職種に転勤となり専門知識を身に付けたいと思ったからです。当時、会社の社宅が与野市にあり埼玉学習センターまで徒歩15分程で、仕事の帰りに夜間面接授業も受けられてとても便利でした。23年で卒業するつもりでした。

Q 入学されたきっかけは。
A 昭和63年、40歳の時に編入しました。会社で新しい職種に転勤となり専門知識を身に付けたいと思ったからです。当時、会社の社宅が与野市にあり埼玉学習センターまで徒歩15分程で、仕事の帰りに夜間面接授業も受けられてとても便利でした。23年で卒業するつもりでした。

Q 入学されたきっかけは。
A 昭和63年、40歳の時に編入しました。会社で新しい職種に転勤となり専門知識を身に付けたいと思ったからです。当時、会社の社宅が与野市にあり埼玉学習センターまで徒歩15分程で、仕事の帰りに夜間面接授業も受けられてとても便利でした。23年で卒業するつもりでした。

学生手帳

笹原誠二
昨年の訪日外国人は838万人で、日本に来る外国人観光客は観光や買い物目的のよ

私も外国旅行に行く度に各地の名物料理を食べることにしているが、マルセイユのブイヤベース、中国の北京ダックや中華料理、イタリア料理、フランス料理にしても、現地で食べるより日本で食べる方がはるかにおいしいと感じることがある。

先日、東洋航路最大のクルーズ船「アジアクルーズ」に参加したが、船内での豪華な食事ですが3日目となると飽きてしまい、ついついバイキング・レストランへと足が向いてしまった。長崎港に入港した日は下船して、昼食は長崎ちゃんぽんの発祥の店・四海楼で本場のちゃんぽんを注文した。観光客の外に地元客も多く1時間ほど待たされたが、懐かしい味を堪能して船に戻った。

日本の都会地では殆どの料理も食べることが出来る。しかも、本場の料理が居ながらにして現地より安価でおいしく食べられる。(ああ、日本人に生まれてよかった)

投稿コーナー

「アメリカ南部巡検」 随記 番外編

勝山 佳子
(埼玉学習センター 教務係)

随記の最後に、巡検中は私たちの食欲を満足させてくれた、南部料理の話で、締めくくろうと思う。

アトラクタの朝食のブッフェには、おなじみのアメリカンブレックファーストの他に、グリッツという、トウモロコシの胚乳部を粥状にしたものが並ぶ。オートミールとお粥のハーフといった感じだろうか。そのままでも、スクランブルエッグやケチャップなどと一緒



朝食は、南部料理の有名店を予約してある。メインはポークリブ、少し甘めのソースがアメリカ人好ましい。パンは、南部のコーンブレッドで、ほんのり甘くて香ばしい。桃の州らしく、デザートはピーチメルバをいただく。桃はジョージアのシンボルだが、農産物の一位は、実はチキンだ、と巡検の資料にある。



ジョージア大学のパーティーでいただいたペカンパイは、南部の代表的なパイだ。鬼胡桃とコーンシロップでつくるとこのパイは、特別な日に、各家庭で作る南部の母の味だ。かなり甘い、米国在住の日本人ガイドは、大層気に入った様子である。アトラクタを後にして、いよいよフロリダへ向かう。途中、サードエアにて、フロリダオレンジジュースをいただく。そして、あの日差しの中で、またキーライムパイを食べたくなった。さあ、また旅に出ようか。



フロリダでは、ストロークラブを食べようという目論みだが、時季外れで、蟹が海老に変身した。でも、とても立派なロブスターで、大満足する。他にも、ワニ

学生研修旅行に 参加して

小野寺 博

私にとって今回の研修旅行は、10年ぶりで2回目の参加であったが、様々な象を考へさせられるとてもインパクトの強い内容であった。特に参考になったのは、菅野教授による地理学的な物の見方についての解説である。この講義を受ける中で、自然の景観と人工物が分離され、時間の流れで見られるようになったこと、また、それぞれの構造物と社会との関わりを感じながら、全体の風景を見るような視点に立てたことなど、問題意識を持つことにより、

車窓の風景が一変した。最初の訪問場所である軽井沢では、明治期を迎えた日本が、多くの外国人の知恵を借りながら近代化を推し進める中で、その人々が暑地として絶好の土地である軽井沢に着目し、別荘地を造ったその歴史的な背景や、その後高原避暑地として現存までどのように開発が進められたかについて、方向性の変化や商業的付加価値など、様々な歴史的景を知る事ができた。浅間山麓の鎌原観音堂では、天明3年の火砕流に過ぎたように感じられる道やインフラが、ダム建設益誘導型の公共投資の構図

詩歌

俳句

冬はじめ水琴窟の声白し
栗ご飯人差指の傷の跡
夫まさば倚りたるものを長き夜
古代米入れて炊きたる栗の飯
力走の児がゐるて囲む栗強飯
秋深みゆく故郷も町の灯も
規子 (つみ草)

サークル案内

サークル おおみや
12月12日(木)
サントリーホール・カラヤン広場に11時45分集合
①サントリーホールでオルガンプロムナードコンサート
②国立新美術館「印象派を超えて点描の画家たち」
③特別忘年会
1月8日(水)
「新年会」JACKビル1フロビーに11時30分集合

囲碁専科

定例会
12月3、10、17日

埼玉同窓会

1月12日、2月9日、3月1日の公開講演会会場
で大学叢書の割引販売

放送大学熟年会

定例会 12月10日(火)
12時〜定例会
13時〜忘年会(ボラボラ大宮店)
1月14日(火) 13時〜パソコン教室
12月3日、24日
1月は休講

江戸時代の 古文書を読む会

定例勉強会
12月7日(土)、21日(土)
いずれも10時〜15時
内容は「伊達騒動」

編集後記

夜明け前の東の空に輝くアイソン彗星が、11月29日の太陽最接近のときには、肉眼でも見えるといわれており、好奇心がそそられます。次号は1月中旬発行予定です。皆様の投稿をお待ちしています

今年のノーベル賞

N生

今年もノーベル賞の季節が巡ってきた。今年のノーベル賞のうち、自然科学部門について注目してみた。

【医学・生理学賞】細胞の輸送システムを解明した、エール大学ジェームズ・ロスマン、スタンフォード大学トーマス・スードフ、カリフォルニア大学パークレー校ランディ・シェクマンの3人。

命ある生物はすべて細胞から成る。そして、それぞれの細胞は“工場”として、血液や骨など、あらゆる分子を作り出し出荷する。細胞は、タンパク質やホルモンなど、作り出した物質を「小胞」というパッケージにまとめており、この小胞が荷物として細胞膜から体の各器官に放出される。しかし、出荷された“品物”がなぜ正しい場所に輸送されるのかは謎だった。

1970年代にシェクマン氏が小胞の輸送を管理する遺伝子を発見。それを受けて1980年代にロスマン氏が、小胞と細胞表面にそれぞれ“ファスナーの片方”が付いていて、受け手側との“両方の歯が合致する”と、品物が配達される仕組みを明らかにした。

その後、スードフ氏が小胞の配達時間を調整するメカニズムを解明している。

選考委員会は「3氏の発見により、細胞の内外部で“荷物”が正しい時間、正しい場所に輸送されるメカニズムが明らかになった」としている。

【物理学賞】ヒッグス粒子の存在を予言した、エディンバラ大学ピーター・ヒッグス、ブリュッセル自由大学フランソワ・アングレールの2人。

1964年、ヒッグス氏は未発見だった最後の粒子であるヒッグス粒子の存在を予言。そのヒッグス粒子は昨年、欧州原子核研究機構CERNの実験によって確かめられたと発表された。ヒッグス先生は携帯電話を持っておらず、選考委員会がどうしても事前の連絡が取れなかった。氏は路上で女性に祝福の言葉をかけられても、何のことなのか知らなかったそうだ。アングレール氏は物質に質量が生じる仕組みを説明する理論を発表。

【化学賞】化学分析反応予測のコンピュータ活用を研究した、ハーバード大学マーティン・カープラス、スタンフォード大学マイケル・レビット、南カリフォルニア大学アリー・ワーシエルの3人。

従来、非常に時間がかかった化学分析にミリ秒単位のコンピュータモデルを導入、一気にスピードアップが進んだ。分子モデルの視覚化は現在、コンピュータを利用した研究が進んでおり、その起源はカープラスとワーシエルが1972年、網膜の反応を説明するコンピュータモデルを構築したことによる。

その後、ワーシエルとレビットが1976年、酵素などの生物反応の仕組みをコンピュータでモデル化した。

特に重要な功績は、原子や電子が同時に2つの場所に存在するように振る舞うという量子力学的な影響を、コンピュータモデルに組み込んだ点にある。「古典力学と量子物理学の両方を最高の形で活用した」と選考委員会は述べている。

授賞式は12月10日、スウェーデンのストックホルムで開催される。